

## 特集

## さしま茶

日本で最初に輸出された「日本茶」

さしま茶は茨城県を代表するブランド茶の一つで県西地域（境町・古河市・坂東市・常総市・八千代町）で栽培されています。茶に好適な土壌や、比較的温暖な気候条件の影響と、適度な寒さから茶葉に厚みがあり、製茶すると濃厚な味と香りが立ち昇り、渋み、深いコクがあるのが特徴といわれています。

現在は深蒸し製法が主流となり、個々の生産者が茶の栽培から加工・販売まで行い、消費者に顔の見える販売を実践しています。



麗澤大学 × 境町

### 証 麗澤大学と連携し、「さしま茶」の歴史が判明

町では、平成29年に「境町と麗澤大学及びさしま茶協会による三者協定」を締結し、共同で地方創生推進交付金事業「日本茶初輸出さしま茶ブランドの価値向上・発信事業」を推進してきました。プロジェクトの集大成として、平成31年2月27日、麗澤大学キャンパス（千葉県柏市）において、さしま茶のルーツに関する調査研究シンポジウムが開催されました。各分野の専門家による研究成果が発表され、さしま茶が日本で最初にアメリカに輸出された本格的な日本茶であることが確かになりました。

### はじめてアメリカに渡った日本茶「さしま茶」のルーツ

さしま茶は、境町のほか、古河市、坂東市、常総市、八千代町の3市2町で生産されている茨城県西部の特産品です。今回のシンポジウムにおいて麗澤大学の櫻井良樹教授より、日本開国時のさしま茶交易の歴史が明らかにされました。猿島台地で育まれた「さしま茶」は、下総国の名産品として多くの人々に親しまれました。江戸時代の文政5年（1822年）に生まれた山崎（七軒）の野村佐平治も、製茶の研究に専念し、「江戸の花」という銘茶を江戸に送り出して

います。

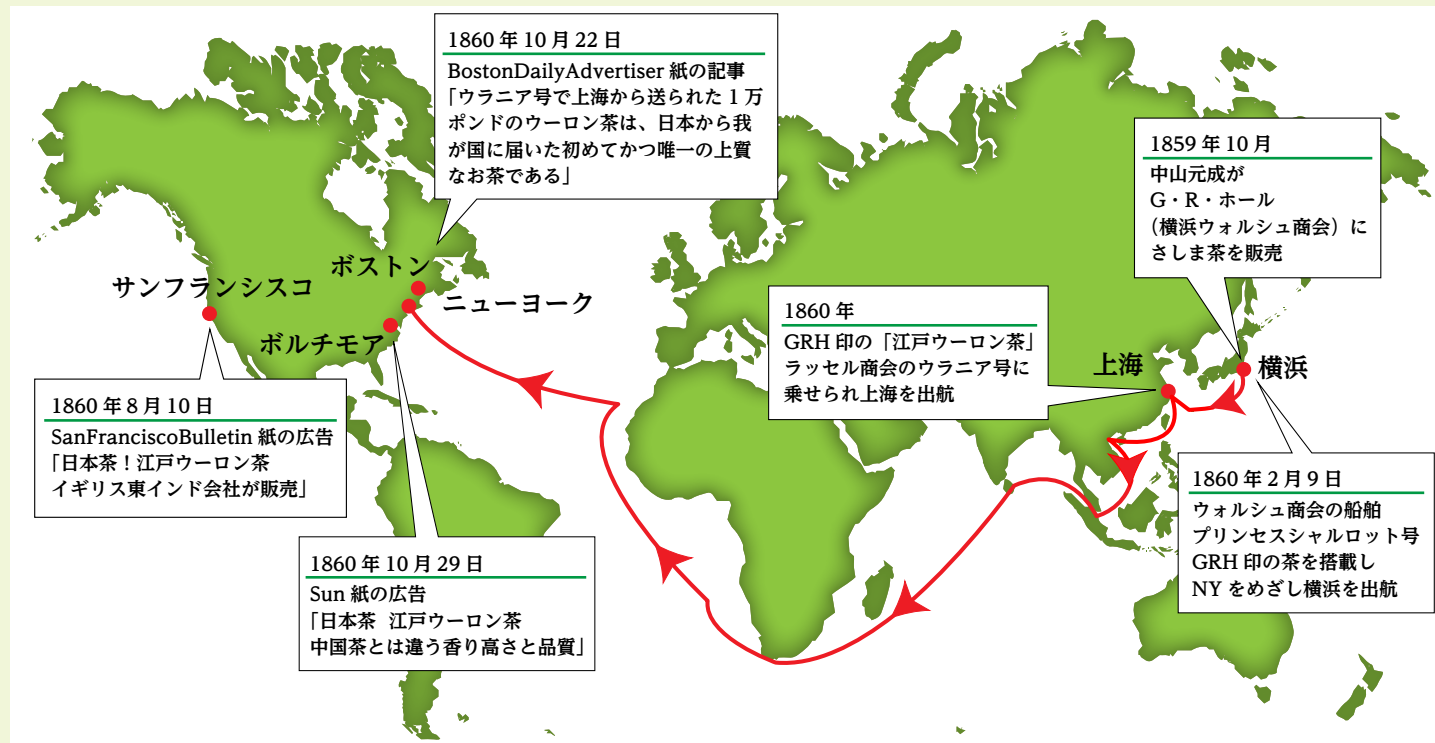
嘉永6年（1853年）ペリーが浦賀に來航し、200年以上続いた鎖国状態が解かれると、岩井の茶商、中山元成は「さしま茶（下総茶）」の海外輸出に乗り出します。

櫻井教授は、中山元成の残した茶輸出に関する売り荷の控え（東大所蔵）から、安政6年（1859年）10月に、アメリカのウォルシュ商会横浜駐在員であるホール氏に、仲買人を通して、「さしま茶」の大規模な販売を行ったことを発見しました。そして、このとき中山がホルのウォルシュ商会に販売したお茶のインボイス（送り状）がハーバード大学に



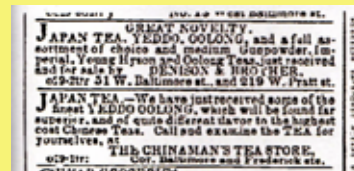
シンポジウム参加者での集合写真（写真左から麗澤大学小野教授、麗澤大学徳永学長、橋本町長、さしま茶協会石山会長、（株）NePi Japan 櫻井代表取締役、麗澤大学櫻井教授、筑波大学氏家准教授、麗澤大学冲山客員研究員、日本大学阿久根准教授）

## 古文書で辿る日本初のさしま茶輸出の経緯

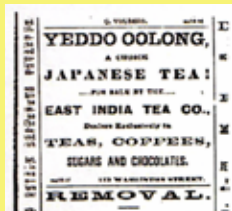


## 記録による証明

## 日本茶の販売広告



▲サン紙



▲サンフランシスコ報

アメリカで販売された「江戸ウーロン茶」の広告

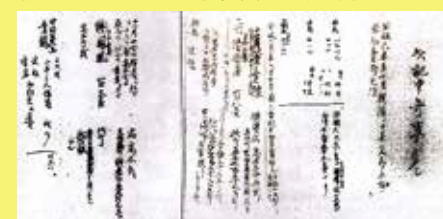
## ラッセル商会文書



▲ハーバード大学ビジネススクール蔵

今回の調査により、ラッセル商会文書の中に、横浜開港期のG・R・ホールの「ウォルシュ商会」の貿易史料が含まれていることがわかりました。G・R・ホールの印（GRH）が付けられた「江戸ウーロン茶」が上海経由でNYに向け出航、販売された事が記されています。GRH 印の茶の中に中山元成が販売したさしま茶が含まれていることが、ほぼ確実に判明しました。

## 中山元成による安政六年横浜で行った茶貿易の売荷控



▲東京大学法学部史料センター蔵

中山元成に関する史料は、現在、東京大学法学部法政史料センター原資料部にマイクロフィルムで所蔵されています。上図は中山元成が残した横浜からの茶輸出に関する書写です。売り込み先として「亜商ホール（G・R・ホール）」の名前が見られます。このホールというのは、ウォルシュ商会の横浜駐在員であったジョージ・ロジャーズ・ホールという人物です。

## VOICE



さしま茶協会  
会長  
石山嘉之さん

今回の調査研究によって、改めて「さしま茶」が日本で初めてアメリカに輸出されたお茶であることが証明され、大変嬉しく感じています。さしま茶の歴史を作り上げてきた中山元成氏をはじめとする先人達に感謝するとともに、今後ますますさしま茶のブランド力を高められるようにさしま茶のPRに注力していきたいと考えています。

さしま茶の「日本で最初にアメリカに輸出された日本茶」という歴史は、さしま茶のブランド力を一層高めるための重要なツールとなると期待が寄せられています。

境町では、シンポジウムの成果を活用し、今後もより一層、特産品であるさしま茶の振興を推進していく予定です。

保存されていることを見つけ出しました。また、櫻井教授は、中山元成やアメリカの商会が残した売買記録を辿り、アメリカ大陸に輸入された最初期の「日本茶」の中に、中山がホールに販売したさしま茶が含まれていることを解き明かしました。古文書の記録により、当時の日米両国の商人が、さしま茶（日本茶）を品質の高い信頼できるブランドとして売り込み、売り出そうとしていたことも分かっています。さしま茶は、伝統ある誇るべきブランドとして、猿島台地に受け継がれ、歴史の中で育まれてきたのです。